



奥多摩出張所

YOSHINARI TOBIUCHI



今月のあの人

PERSON

今回は西多摩建設事務所奥多摩出張所の飛内良成所長にインタビューしました。飛内所長は、平成3年度に土木職として入都。水道局を経て平成10年度に建設局西多摩建設所に着任して以来、様々な現場を経験されたのち、令和5年4月から現職です。今回は、飛内所長の用地課時代のお話を中心に、現在のお仕事や趣味のお話など、幅広くお話をお伺いしました。



飛内所長が線型設計に携わった梅ヶ谷トンネルの平面図



西多摩建設事務所 奥多摩出張所長

飛内 良成

YOSHINARI TOBIUCHI

略歴

平成3年4月に水道局に入都。建設局歴は、平成10年4月に西多摩建設事務所工事第一課からスタート。総務部、道路建設部などを経て、平成19年4月より西多摩建設事務所用地課で用地取得業務に携わる。その後、南多摩西部建設事務所、第三建設事務所、第二建設事務所などで数々の工事部署を経験した後、令和5年4月より西多摩建設事務所奥多摩出張所長。

趣味

歴史散策（特に幕末～明治時代が大好き）
鹿児島、高知、山口など数々の名所を巡るのが夢。
東京近郊には、歴代の名士のお墓も存在しているので、特に世田谷区の松陰神社が好きで、よく訪れています。





あの頃の自分

THOSE DAYS

Q1 建設局での最初のお仕事について教えてください。

建設局での最初の勤務は30歳の頃、西多摩建設事務所工事第一課からのスタートでした。新しい道路を作るときに、どこに何色の照明をつけるか、補修課と相談しながら決めていったのですが、ここの仕事は地図に残る仕事なんだと実感して嬉しかったです。道路は、都市計画に沿って作るケース以外に道路法に基づいて設計する道路もあり、後者の場合は道路を通すルートも自分で決められる。西建ではそういう道路が多く、その仕事もまた魅力の一つでした。その後、総務部の技術管理課にいたのですが、そこもまた違った楽しさがありました。事業者の工事に関する評価をする制度が始まったばかりで「工事成績評定表」を作ったことが思い出深いです。その次に、道路建設部街路課で予算管理を担当したのですが、予算を扱うのが初めてだったこともあり、最初は苦労しましたがとても勉強になりました。



白い照明とオレンジの照明の境界を決めた思い出の現場

Q2 初めて「用地担当」になった時のお仕事はいかがでしたか？



平成19年度に西多摩建設事務所で用地担当になりました。1年という短い間でしたが、中小河川整備事業として霞川の用地取得に携わり、並行して、多摩川南岸道路など計8か所の事業を担当しました。私が土木職出身の用地担当で良かったと思う点は、地権者さんにこれからできる道路計画のイメージを聞かれた際に、ある程度具体的に伝えることができた点ですね。地権者さんの不安を軽減できるという点では良かったです。この地域は田んぼや農地が多いので、農地法※の規制を気にしながら折衝しました。ほかにも、買収の仕事はタイミングもとても大事で、法改正に伴う納税猶予時期※※との調整など、買収スケジュールについて相談を受けることが多かったのですが、そこは工事課との連携が鍵でした。この仕事で土工連携の大切さを実感したので、用地担当を離れたあとも、自然と工事担当のメンバーに、用地担当側の気持ちを代弁することが多くなりました。

※青梅市では30㎡以上の農地を所有していないと売買ができない
※※平成30年度税制改正により、贈与税・相続税の納税猶予制度が改正された

Q3 当時のご自身を振り返って、どのように思われますか？

用地の仕事は、できれば多くの人に経験してほしいですね。自分の財産を売る、という地権者さんの複雑な思いに最初に接するのが用地課です。一番不安なのは地権者さんで、そこに寄り添った経験は、その後工事を担当する際の気持ちの柱にもなりました。もちろん工事が始まってから地権者さんとの接点はありますが、用地担当が最初に引き受ける。だからこそ折衝は大変な仕事なのですが、最初の一歩を知れたことは自分の仕事人生の中でも大きな経験となっています。

霞川：Before→After



平成19（2007年）年7月11日 → 平成30（2018年）年6月29日

霞川の拡幅事業のための用地取得には多くの思い出があります。太平洋戦争でガダルカナル島に出兵していた地権者さんが、国に作ってもらったという真四角のハンコで契約されたときも、それぞれの人に歴史があると感じました。



今の自分

NOW

Q4 奥多摩出張所での現在のお仕事について教えてください。



災害防除事業のひとつである法枠アンカーと落石防護網の設置



道路の傷みと滑り止め舗装を改善する路面補修事業



奥多摩出張所が所有する除雪車

奥多摩出張所の庁舎の中には、奥多摩出張所に14名、奥多摩工区に8名、計22名が働いています。奥多摩周遊道路と国道139号、国道411号線のうち、小河内ダムから山梨県との都県境までのエリアの維持管理が主な仕事です。毎日3時間ほどかけてパトロールして、危険な場所があれば補修します。いかに安全に楽しく使ってもらうか、ということを大事にしているのですが、嬉しいことに、奥多摩周遊道路のクリーンさは、SNSでも話題になっているらしいんです。町や委託業者さんと連携して管理しているのですが、葉っぱが全く落ちていないきれいな峠道は珍しいと、観光で訪れるライダーの方々からも評判です。毎日パトロールをしているメンバーは、あそこの木は昨日はなかった、ここが剥離しているなどと、景色が違うことにみんなすぐ気づいてくれます。情報は全てデータ化していて、危険な場所など優先順位をつけながら補修していくのですが、維持管理のエキスパートがそろっていると感じます。

Q5 土地柄、天候への配慮など気が抜けないことが多いとお聞きしていますが。

自然環境や気象状況は独特ですね。雪については、場所によっても状況が違うので、天気予報のほかに現地のカメラ映像をみて予測していかなければなりません。奥多摩町の気温は他市との差はもちろん、山頂と庁舎付近も随分違うので、明日凍るかな、雨は降るかな、と毎日細かく確認しています。動物についても色々なエピソードがあり、観光客の方から、山頂に猫がいるから保護してほしいという連絡を受けて駆け付け、今は出張所のメンバーが保護した猫を飼っているという話もあります。鹿や熊の足跡を見つけて慌てて帰ったこともありましたね。



奥多摩出張所が管理する奥多摩周遊道路

Q6 過去の仕事を振り返って、改めて想うところはありますか？

梅ヶ谷トンネル：Before→After



令和元（2019）年6月12日



令和6（2024）年3月

写真（左）に写っている民家は、写真（右）の右手に確認できません。ゼロからイチを作り出す今回の現場は線型決定から14年、事業着手から9年で完成しました。

道路については、一連の流れを経験してきて、最後の工程（維持管理）に携われているというのが意味深いですね。これまで、西建、南西建、三建、二建など多くの現場で整備を担当しましたが、本当にそれぞれ楽しかったです。西建では、ちょうど14年前に、山だけがある場所でトンネルの道路線型を決定して、トンネルの必要性を説いていたのですが、当時担当していた梅ヶ谷トンネルが、今年の3月16日に無事開通式を迎えたことは感無量です。その後の令和元年東日本台風で道路が寸断されたことで、梅ヶ谷トンネルの必要性も明らかになりましたし、開通後、これから末永く地元にも愛されるトンネルになってくれると思います。

取材を終えてひとこと

私は、平成3年のバブル時代に入都したのですが、当時は、公務員の給与は民間の半分程だったこともあり、周りから「なぜ役所に就職したのか？」とよく聞かれていました。でも、私は、コンサル会社は設計、ゼネコンは建設に特化して担当するけれど、都の仕事は、最初から最後まで一貫して携われる点が魅力だと思って東京都を選びました。計画から工事まで全てに携われるところに魅力を感じて入った職場で、実際に、計画、用地取得、工事、管理と、すべての工程に携わることができたのは、土木技術者の自分にとって比類のない喜びです。行政における土木職は広く全体を把握できるという意味で特殊なので、私はこれを「行政土木」と位置付けています。行政の土木職の中では、東京都の仕事は丁度いい大きさだとも思っていて、首都東京だからこそ味わえる魅力があると思います。国が行うような大きな工事から、町が行うような身近な工事まで携わることができる。それこそが都の土木職としての醍醐味だと感じます。



奥多摩出張所のみなさん

番外編 ～メンバーとのつながりや趣味について～

用地課時代に一緒に仕事をしていたメンバーとは、みんなで週末にワカサギ釣りに行くなど、当時、本当に楽しく仕事をしていました。今でも交流が続いています。現在の趣味と言えば、もっぱら歴史散策です。幕末時代が大好きで、全国各地の名所・史跡を妻と一緒にめぐる休日が何よりの楽しみです。

愛宕山
勝海舟と西郷隆盛ゆかりの地松陰神社
吉田松陰ゆかりの地

TOPICS ～西多摩建設事務所～

西多摩地域のココに注目！



東京都全体の26%を占める広大な地域。奥多摩湖が織り成す雄大な自然美も。



広大な西多摩地域は、標高1000メートルを越す山を含む山岳地が全体の約7割。奥多摩湖周辺をはじめとして風光明媚で自然豊かな地域です。山に囲まれているので、トンネル整備もいくつも並行して行われています。直近では、梅ヶ谷トンネルが無事に開通しました！



開通直前の梅ヶ谷トンネル

都が整備を進めている一般都道238号大久野青梅線のうち、西多摩郡日の出町大久野から青梅市梅郷一丁目までの梅ヶ谷トンネルを含む約1.5kmが令和6年3月16日15時に交通開放されました。平成27年の事業着手から10年での開通はとても速いと言われています。これにより、道路網のダブルルート化が図られ、一般都道184号奥多摩あきる野線沿線地域の孤立化を防ぐなど、地域の防災性が向上します。また、日の出町方面と青梅市方面のアクセス時間も大幅短縮できるなど、今後の産業や観光の振興にもつながることが期待されます。



次号のONE TEAM 建設局 特集について

NEXT

次回は「用地のレジェンド」です。お楽しみに。